

平成30年度 しょうぶの里等の事業計画

I しょうぶの里（障がい者支援施設）

1 運営の基本方針

しょうぶの里は、社会福祉法人熊本市手をつなぐ育成会が、平成13年に設立した障がい者支援施設で、現在は、施設入所支援、生活介護、短期入所、日中一時支援A型事業等の福祉サービスを提供するほか、グループホーム、生活困難者レスキュー事業など、障がいのある人の地域生活の拠点としての機能を有する。

〔運営の基本理念〕 「主役は利用者さん」

しょうぶの里は、多くの育成会会員の願いと期待、長年の努力によって実現した施設である。そのしょうぶの里では、職員には、高い倫理観や人権感覚が求められる。福祉サービスの主役である利用者が、健康で安全安心、豊かで幸せな生活が送れるよう、職員は、利用者の意思や人権・人格を尊重し、丁寧で誠実、温かみのある支援に徹するとともに、支援の質の更なる向上を目指して日々努力しなければならないと考える。

また、利用者の自立と社会参加をめざすとともに、地域社会で豊かな生活を営むことができるよう、地域との連携を強化して地域貢献に努める。

2 サービス

(1) 支援体制

職名	常勤	非常勤
管理者	2人	
サービス管理責任者	1人	
生活支援員	15人	3人
看護師	2人	
事務職員	2人	
栄養士	1人	
調理員	3人	3人
医師（嘱託）	1人	

(2) しょうぶの里の生活の流れ

入所	時刻	通所
起床 洗顔 朝食 歯磨き	7:00	
部屋掃除 ラジオ体操 散歩	9:00	迎え(8:40～) 着後健康観察
作業活動(毎日)	10:00	作業活動 入浴 ウォーキング ラジオ体操
作業終了 掃除 昼食 歯磨き	12:00	作業活動 掃除 昼食 歯磨き
作業活動(月・火) クラブ(水)	13:30	作業活動(月・火) クラブ(水)
里会(木) 余暇活動(土・日・祝)	14:00	里会(木)
おやつ 入浴	15:00	おやつ 反省 送り(15:30)
夕食	18:00	
自由時間	19:00	
就寝	22:00	

(3) 支援の内容

①施設入所支援 (夜間支援) (30人)

※夜間(夕方～翌朝)、休・祝日に日常生活全般を支援
・夜間、休・祝日における食事・入浴・排せつ等の支援及び介助。
・休・祝日の余暇活動(スポーツ・文化活動・お出かけ・買物等の体験)
・諸行事(季節・伝統・地域行事)や交流会(学校・地域・団体等)に参加

②生活介護 (日中活動) (40人)

※入所支援と生活介護を一体的運営し、同じサービスを提供する。

・常時介助が必要な利用者に対し、主として、昼間、入浴・排せつ及び食事の介助や日常生活上の支援を行うとともに、創作活動や生産活動の機会を提供して、身体能力や生活能力の向上を図る。

《活動グループと内容》

- ◎ アートグループ・・・絵画・イラスト・オブジェ・木工・陶芸 (作業棟)
- ◎ 環境整備グループ・・・軽作業・生産活動・環境整備・園芸等(屋外)
- ◎ 通所グループ・・・古紙・アルミ缶回収・石鹸作り等(新作業棟、通所棟)

(4) サービス提供の留意点

①支援

- ・個別支援計画に基づき、利用者の人権・人格、意思を尊重するとともに、個人の尊厳を守り、利用者の心に寄り添った温かみのある支援を行う。
- ・自立した日常生活と社会参加ができるよう支援に努める。
- ・障害者虐待防止法・障害者差別解消法等の法令遵守を徹底する。

②事故防止、安全管理について

- ・常に目配りや気配りを怠らず、職員間の「ほうれんそう」を徹底する。
- ・利用者の安全安心に心がけ、危険と思われる施設設備の改善に取り組む。
- ・年間で火災避難訓練を実施。水害や地震、津波、防犯等の訓練も実施する。

③健康管理

- ・看護師を中心に、利用者の健康に留意し、個人や状況に応じた対応を行う。
- ・加齢に伴う利用者の体力低下を防ぎ、健康や体力の維持・回復を図る。
- ・感染症には、施設内外の感染経路に気を配り、予防と適切な対応に努める。
- ・誤薬防止に努める。

④給食

- ・安全で、栄養のバランスのとれたおいしい食事の提供に努める。
- ・地産地消の食材を基本にして、地域で取れた新鮮なものを使う。
- ・加齢化や健康状態に配慮して、個に応じた食事の提供に努める。

3 今年度の重点課題

(1) 日中活動の充実

- ・利用者の生活に関する現時点の課題
 - ①豊かな生活（メリハリのある、希望ができるだけ実現される生活）の実現
 - ②利用者の加齢・高齢化、体力低下・老化防止に向けた対策

[具体的な取組み]

- ①日課の中にウォーキング以外で体を動かす時間をつくる。
 - ・全般的に不足している運動量や活動量を増やす活動を取り入れる。
 - ・外部（アクアドームなど）でのウォーキングや裏山の山のぼりなど。
- ②外での活動を充実させる。
 - ・「1日お出かけ」（仮称）の設定。
利用者が一番やってみたいことに、職員が終日つき合う（年1回）。
 - ・花壇の草取りや畑の活動、平日の外出や図書館利用、ショッピングセンターでの買物、調理など、生活経験を広げる活動を取り入れる。
 - ・町内の塵拾いや除草作業などの活動にも取り組み、地域に貢献する。
- ③アート活動は工夫を行う。
 - ・実績と歴史のある活動ではあるが、1年間の成果発表会の設定や月ごとにテーマを決めたりといった工夫を行い、利用者が意欲的に取り組めるようにする。アートに関する職員のスキルアップも図る。

(2) 質の高い支援の実施

- ・「主役は利用者さん」という意識を、会議や研修、日常的なOJTをとおして高め、利用者理解と支援の質の向上に努める。
- ・利用者に寄り添い、利用者の思いを受け止められる豊かな感性を磨く。
- ・利用者の尊厳と人権を大切にし、意志を尊重した温かみのある支援を行う。

(3) 安全管理、事故防止の徹底

- ・命を預かっていることを肝に銘じ、緊張感を持って目配りをしていく。
- ・利用者の安全を守るため、不審者対応マニュアルの整備、日頃の安全管理や緊急時の対応等、不審者対応を強化する。
- ・火災避難や自然災害等、万一来た場合に備えた避難訓練を定期的実施する。
- ・ヒヤリハット事例を集積し、全職員で共有して事故を未然に防ぐ。

(4) 健康管理の徹底

- ・利用者の健康を「医」「食」「運動」の面から捉え、健康診断結果等をもとに、利用者の健康維持に必要な対策を講じる。
- ・看護師2人体制のもと、感染症対策委員会を立ち上げて予防と対応に努める。
- ・服薬時の薬のWチェックや職員間の情報共有の徹底、防止・対応マニュアルの作成等により、誤薬をゼロにする。
- ・訪問リハビリ、活動量・運動量の確保等、利用者の体力低下・老化防止に向けた対策を取り、健康で元気に毎日の生活を送ることができるようにする。

(5) 安全でおいしい食事の提供

- ・食事は、健康の源だけでなく、生活の中で大きな楽しみの一つ。季節の食材を使用し、行事食、リクエストメニューなどにより、要望に応じていく。
- ・冬場に食事が冷めないよう、保温機能のついた保管庫なども検討する。
- ・看護師、栄養士、担当職員で栄養マネジメントのための体制を整える。

(6) 施設設備の充実

- ・建物周りに防犯カメラやセンサーライトの設置を進める。
- ・浴槽をスロープにするなど、バリアフリー化を進め、事故を未然に防ぐ。
- ・暖かい食事が食べられるよう、保温機能がついた保管庫を設置する。
- ・食堂の手洗い場と同様に、通所棟手洗い場のお湯も検討する。
- ・災害に備えて非常食を確保する保管庫を設置し、常時収納保管する。

(7) ご家族とのコミュニケーション・連携の強化

- ・ご家族も高齢となり、家族会等への出席が減り、お会いする機会が減っているが、必要な連絡や報告は、担当職員から電話などで確実に行うようにする。
- ・体調面で無理が利かないご家族も増加。ご家族の方の状況把握にも努める。
- ・広報誌「おれんじの屋根」は、里の様子が分かると好評であり、ホームページも充実させるなどして、里の様子を随時お知らせしていきたい。

(8) 地域・関係機関との連携の強化

- ・地域の方から信頼されるよう、今後も、地域との交流に誠実に努力し、開かれた施設をめざす。
- ・地域の行事には、利用者も積極的に参加して、地域に貢献する活動を行う。
- ・福祉避難所や生活困難者レスキュー事業等の公益事業を積極的に行う。

4 主な行事予定

※○：しょうぶの里の行事 ◆：地域、その他の行事

4月	○ピクニック ○火災避難訓練①	10月	○お月見会 ◆小島小学校交流行事 ○不審者侵入避難訓練
5月		11月	○インフルエンザ予防接種
6月	○しょうぶの里まつり ◆町内グランドゴルフ大会参加 ○大雨洪水避難訓練	12月	○クリスマス&忘年会（ホテル日航） ○火災避難訓練②
7月	○七夕祭り ○定期健康診断 ○涼もう会 ◆市育成会大会参加	1月	○書初め・新年会 ○初詣（加藤神社）
8月	○そーめん流し ◆育成会 県大会、九州大会参加 ◆防災訓練（地域に参加）	2月	○節分・豆まき ○バレンタインチョコ作り
9月	○救急蘇生法	3月	○ひな祭り ○クッキー作り ○定期健康診断 ○火災避難③
※一泊又は日帰り旅行(年1回)、担当と利用者二人で出かける「自由の日」(年1回)			

- 定例的な行事
誕生会・お話会・ダンス（月1回）、訪問リハビリ（月2回）
- 地域の行事等への参加
へいせいふれあい祭、小島小交流会、小島祭、坪井川クリーン作戦、町内一斉清掃、歩け歩け大会
- 育成会本人部会「つなごう会」（毎月）
- 育成会大会
熊本市大会、県大会、九州大会
- その他
ハートウィーク開会式・アールブリュット開会式、希望荘フェスタ、チャリティはっさく狩り

5 施設運営に関する行事

- ・定例会議 毎月の職員会・研修会の実施
- ・家族会 年2回開催
- ・施設運営委員会 年2回開催
- ・苦情処理第三者委員会 3月に開催
- ・虐待防止委員会 3月に開催
- ・避難訓練 火災避難訓練、津波避難訓練、地震避難訓練
- ・事故防止・安全委員会（新設） 年2回程度実施
- ・人権擁護・虐待防止委員会（内部：新設） 年2回程度実施

《参考資料》

H30年度 利用者の年齢構成・平均年齢等 （※H30.4.25現在）

[入所]

	男性	女性	計
10代			
20代			
30代	1	3	4
40代	5	3	8
50代	9		9
60代	2	4	6
70代	2	1	3
計	19	11	30
平均年齢	53.5歳	50.9歳	52.6歳

[通所]

	男性	女性	計
10代		2	2
20代	2		2
30代	1	3	4
40代	2	2	4
50代	1		1
60代			
70代			
計	6	7	13
平均年齢	37.2歳	31.4歳	34.1歳

Ⅱ しょうぶの里 短期入所・日中一時支援事業

1 運営の基本方針

ご家庭の事情等により、利用者に短期間の入所サービスを提供し、介護や日常生活の自立を支援する。

2 入居者定員 5人

3 サービスの内容

(1) 支援体制

- ・管理者、サービス管理責任者、支援員、看護師、事務職員、栄養士、調理員
- ・医師（嘱託）

(2) サービスの提供

- ・昼間、夜間、休・祝日とも、入所支援の利用者と同じサービスを提供し、必要な支援を行う。

(3) サービス提供の留意点

- ・申込み時に、健康状態、病歴、心理や行動特性等の留意点を詳しく聞き取る。
- ・受け入れ時には、持ち物・薬の確認や健康状態のチェックを入念に行う。
- ・利用者の人権を大切にし、温かみのある支援をする。
- ・引き渡し時には、帳簿と照合しながら、持ち物の確認を確実に行う。

4 今年度の重点課題

(1) 申込み（契約時）

- ・聞き取りは、温かみのある雰囲気の中、詳しく、丁寧に、時間をかけて行い、安心感を持っていただくようにする。
- ・家庭と他の利用施設での集団生活の両面から、行動面や心理面の特性等に関する情報収集を行う。

(2) 受け入れ

- ・利用者の持ち物（荷物、薬）、体調や健康状態のチェックを確実に行う。
- ・感染症流行期は、ご家族や利用施設の情報収集を密にし、感染予防に努める。

(3) 支援

- ・初めてまたは利用回数の少ない人には、特に目配りを行うとともに、利用者に寄り添った優しい言葉かけと対応を行い、安心感を持てるようにする。
- ・慣れない環境の中なので、しっかりコミュニケーションを取って支援する。
- ・自傷・他傷の行為やトラブルの恐れがあるときも、寄り添って支援する。

(4) 引き渡し

- ・しょうぶの里での生活の様子を詳しく伝えるとともに、忘れ物や体や健康面で異常がないかしっかり確認する。
- ・次も利用したいという気持ちを持っていただけるよう、笑顔で見送る。

Ⅲ グループホーム（共同生活援助）事業所

1 事業所名

○グループホーム 「ぎんなん」	(定員10人)
熊本市西区上熊本2丁目2-18	
○グループホーム 「千金甲」	(定員4人)
熊本市西区小島9丁目3-3	
○グループホーム 「あいりす」	(定員7人)
熊本市西区小島9丁目2-22	

2 運営の基本方針

- ・入居者が共同して自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、食事の提供、相談、その他必要な日常生活上の援助を行う。
- ・入居者の意思及び人格を尊重して温かい人間関係を醸成し、楽しく共同生活が送られるよう支援を行う。

3 支援体制

- ・管理者（1）、サービス管理責任者（2）、世話人（2）、経理担当者（1）

4 各グループホームの状況

	「ぎんなん」	「千金甲」	「あいりす」
1 入居者 定員	10人 (男性5人・女性5人) ※満室	4人(男性4人) ※空き室1	7人(男性7人) ※空き室1
2 入居者 の就労 先	一般就労(7人) 就労継続支援A型(1人) 就労継続支援B型(1人) 生活介護(1人)	一般就労(2人) 生活介護(1人)	就労継続A型(2人) 就労継続B型(2人) 生活介護(2人)
3 重点目 標	・障がいの程度が軽度の入居者が多く、特に金銭管理や交友関係等について助言や会話を通して見守るようにする。 ・身だしなみや衛生面に課題がある入居者には、入浴や洗濯、掃除等をこまめにチェックして必要に応じて支援する。	・少人数のホームなので仲良く助け合って暮らすように支援する。	・こだわりや個性の強い入居者の支援に努め、快適な生活を送っていただく。 ・帰宅の遅い入居者もいるので、門限を守って帰宅するよう習慣づけを図る。 ・金銭の使い方に課題のある入居者には、適切な金銭の使い方を支援する。